

(様式5)

調査報告書

訪問調査日	平成20年 3月 21日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 30分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 花々館 (鹿児島県)
-------------------	-------------------------

外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

評価調査員の氏名	氏名 山下 賀子 氏名 福留 昭
事業所側対応者	職名 管理者 計画作成担当者 氏名 田中みどり 安楽 孝 ヒアリングを行った職員数 4 名

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 31日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4673000156号		
法人名	医療法人 佑志会		
事業所名	グループホーム花々館		
所在地	鹿児島県日置市伊集院町徳重190番2 (電話) 099-273-8787		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年3月21日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】 (平成 20年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 14年 9月 5日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤17, 非常勤2人, 常勤換算14.92人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建ての 1, 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	1日 400 円	
敷金	有 (円) <u>無</u>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<u>有</u> (20,000 円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / <u>無</u>	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (H20年 2月 1日現在)

利用者人数	16 名	男性	2 名	女性	14 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	5 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 88.3 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	守屋病院、藤井歯科
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、住宅街の一角にあり、2階建ての民家づくりとなっている。医療法人が母体であるため医療連携が充実していて、入居者や家族の安心材料となっている。
職員は入居者とのコミュニケーションを重視し、できることを探しながら入居者一人ひとりの意向を叶えられるよう、チームワークで取り組んでいる。各種の委員会を設立し毎月交互に学習会を開き、ケアサービスの質の向上に向けた取り組みも行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回介護計画を職員間で共有する方法の改善が求められた件に関しては、ケアチェック表を作成しケアプランが共有実施できるよう改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価のねらいや意義を職員に説明し、自己評価が自らのケアを振り返る契機となるように、全職員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では入居者の状況、行事内容、活動状況を報告すると共に、事故報告や苦情相談の内容などを報告し、意見や助言を得ながら、サービスの質の向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や要望については、面会時の声かけや居室に連絡帳を準備し情報交換を行っている。出された意見はスタッフと話し合いをもち、解決に向けた取り組みをしている。地域住民からの問い合わせや疑問点に関しては、ホームの現状や認知症についての説明を行い理解を得られるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入し公民館の敬老会、地域の文化祭見学、妙円寺参り、生き生きサロンへの参加等の他、福祉の体験学習やホームの行事に合わせたボランティアの受け入れなど、地域住民との交流を図る機会を多く作っている。

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 山下 賀子 / 調査員 福留 昭

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容について、最近見直しを行った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は室内に掲示すると共に、朝の申し送り時に唱和し、共有を図っている。職員は日々のサービス提供場面において、理念が反映されるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、公民館主催の行事、妙円寺参りなど地域の一員として交流を深めている。又、福祉の体験学習の受け入れや、ホームの行事に合わせたボランティアも受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価のねらいや意義を職員に説明し、全員で自己評価に取り組み、サービスの質の確保に活かすように努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の会議では、入居者の状況や行事等の活動内容の他、事故報告、苦情相談の内容を明確にし対応を話し合いながら、サービス向上に活かせるよう取り組んでいる。		

グループホーム花々館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には、市の介護保険課長が出席し情報交換や相談を行っている。又、市の主催する事業説明や研修会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に入居者の暮らし振りや様子を報告している。ホーム便りを季節ごとに発行し、行事報告、スタッフの紹介、認知症やインフルエンザについての豆知識なども載せている。又、毎月担当者直筆の近況報告を行うと共に、金銭管理状況の報告も行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各居室の連絡帳のやり取りや、面会時に声かけをして、要望や意見を出してもらう機会を設けている。出された意見は、スタッフと話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニット間の職員を固定化し、顔馴染みの職員によるケアを心がけている。 新人職員は入居者に紹介すると共に、ホーム便りや近況報告、面会時に家族にも紹介し、信頼関係を築くよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員が交代で参加し、報告体制も確立している。年3回の法人内の研修参加や、学習委員会、身体拘束、事故対策、感染対策、防災対策等の委員会を立ち上げ、2ヶ月に1回交代で勉強会を行い、ケアの質を高めるよう独自の取り組みが行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「地区認知症グループホーム連絡協議会」に年2～3回4名ずつ参加し、交流や情報交換の場を作り、サービスの質の向上に向けた取り組みをしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、家族と相談しながら本人の状況に合わせた説明を行っている。場の雰囲気に馴染めるように、ホームの見学をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、得意料理や昔話を聞きながら共に支えあう関係を作り、芋餅作りや陶芸教室など一緒に楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の意向や希望を聞きながら、「できる方法を探す」という取り組みをしている。日頃よりコミュニケーションを重視し、一人ひとりの思いを大切に支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族から意向や希望を聞いたり、受け持ちの職員を中心に日々のカンファレンス、月1回のスタッフ会議の中で情報交換を行い、それぞれの意見を反映させた介護計画となっている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリング、ケアプランは定期的に見直している。ケアプランは1週間分ずつ介護記録にチェック記入する方法をとり充実を図っている。状態変化時は随時見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合い、通院やリハビリの送迎等、本人の意向に沿った柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医となっており、通院介助も行っている。又、協力医療機関は24時間受診可能で、往診を含め適切な医療を受けられる体制にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時「看取りについて」の説明を行い、同意書ももらっている。重度化した場合や急変時には、その都度家族や医療関係者で話し合いを持ち、方針の共有を行いながら本人、家族の希望に応じた支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、入居者のプライバシー確保の重要性に留意し、職員も認識している。又、スタッフ会議やミーティングの折に、声かけや接し方について具体的に指導しながら、職員の意識向上を図る取り組みをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態や、その日の気分を大切に、食事や入浴の時間をずらしたり、外食の支援をする等、本人のペースを大切にして柔軟に対応している。		

グループホーム花々館

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりに合わせて食事の下ごしらえ行ったり、調理方法を聞きながら一緒に料理をしている。一緒にテーブルで、楽しく食事ができるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎朝、健康状態を把握し、入浴時間は本人の希望を聞きながら対応し、週3回は入浴できるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ちらしを利用した箱作りや、洗濯物たたみなど個々の役割を発揮できるよう支援している。歌を歌ったり、陶芸教室での手作りの皿を作成することも入居者の楽しみのひとつとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩、週一回の買物など、個別の外出支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路に面して危険なので、玄関は日中も鍵をかけている。入居者個々の外出の傾向を把握しサポートしている。	○	職員の見守りの方法を検討し、日中鍵をかけない工夫をすることが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得た防災訓練を実施している。防災対策委員会を中心に、入居者と一緒に毎月避難訓練を実施している。今後近所の方も含めた防災訓練も検討している。		

グループホーム花々館

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量をチェックし、定期的に体重測定を行い、医師や管理栄養士と相談しながら個々の状態に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は移動しやすいようにスペースを広くとる工夫がされている。花や手作りの作品を飾り、季節感を感じながら居心地よく過ごせる空間づくりである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスやソファ、テレビ、家族の写真などが持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。